

## 外国語

### 1 学習指導と評価の改善・充実

～平成17年度高等学校教育課程実施状況調査の分析結果と指導上の改善点～

#### (1) 調査の概要

調査対象科目、学年等

「英語」について、〈聞くこと〉、〈読むこと〉、〈書くこと〉の三つの領域で全国の高等学校の第3学年及び中等教育学校の第6学年約30,000人の生徒を対象にペーパーテストと、教師及び生徒を対象とした質問紙による調査を実施した。

#### (2) 質問紙調査の結果の概要

##### ア 生徒質問紙調査

「英語の勉強が好きだ」、「英語の勉強は大切だ」、「英語の授業がわかる」に対する生徒の肯定的な回答の割合は、それぞれ40.1%、82.9%、38.3%となっており、前回調査とほぼ同様の傾向である。英語学習の重要性の認識の高さと対照的に、内発的な動機付けや学習内容の理解と定着の不足をうかがわせる。

##### イ 教師質問紙調査

授業形態に関しては、ティーム・ティーチングや少人数指導の実施に関して、28.5%の教師が「実施している」と回答し、前回調査(19.8%)より増加傾向が見られる。

#### (3) ペーパーテスト調査結果の特色と指導上の工夫・改善のポイント

##### ア 聞くこと

##### (ア) 「聞くこと」に関する調査結果の特色

道案内に関する問題のように、一つの話題の中で情報量が多くても、その情報を整理しやすいものは、ある程度理解できるが、複数の詳細な情報(例えば、数字等)を聞き、理解する力は十分ではない。

相手の意図を理解し、定型表現と異なった表現を使用して適切に応答する力は十分ではない。

##### (イ) 「聞くこと」に関する指導上の工夫・改善のポイント

意味をとらえて応答したり、情報を整理しながら要点を理解したりする力を高めること。

- ・ 定型どおりの応答ではコミュニケーションが成立しないような場面や機会を設定して練習させること。例えば、薬局での会話で、What can I do for you?と尋ねられた場合など、必ずしもcanを用いて応えるのではなく、I think I have a cold. のようないくつかの応答の仕方を身に付けさせる指導を工夫すること。
- ・ 道案内のように中学校から繰り返し学習している内容を理解する力は身に付いていると考えられるが、高等学校においては、既習事項を相互に関連付けた英語を聞かせる活動などにおいて、メモを取って要点をまとめるような練習をさせるなど、情報量が多くても、意味内容が理解しやすくなるような指導を工夫すること。

## イ 読むこと

## (ア) 「読むこと」に関する調査・結果の特色

本文中の平易なキーワードを手掛かりにして、内容に関する質問に解答することはある程度できるが、文章全体の流れを読み取り、概要をとらえる力は十分ではない。

接続詞や意味のつながりを手掛かりにして、正しく英文を並べ換えることはある程度できるが、文章全体の流れを踏まえ、空所にふさわしい語句を補充する力は十分ではない。

## (イ) 「読むこと」に関する指導上の工夫・改善のポイント

複数の情報を整理して概要・要点を正確に読み取ったり、言語の使用場面と働きを意識して書き手の意向を理解したりする力を高めること。

- ・長い文章を読んで、おおよその内容や全体的な流れ、読み落としてはならない重要なポイントなどを読み取らせる指導を工夫すること。
- ・まとまりのある文章を読む際に、言語の使用場面と働きを踏まえて、書き手の意向を適切に理解させる指導を工夫すること。

## ウ 書くこと

## (ア) 「書くこと」に関する調査・結果の特色

トピックを踏まえてまとまりのある内容の英文を書く力は十分ではない。

関係代名詞を使って絵の中の人物を説明することはある程度できるが、メモを見ながら内容を伝える力は十分ではない。

単語を並べ替えるなどの問題では、助動詞を用いた受動態や関係副詞whereなどの問題はある程度できるが、不定詞の否定やS+V+O+CでCが現在分詞である構文について、文構造の理解が十分ではない。

## (イ) 「書くこと」に関する指導上の工夫・改善のポイント

書く意欲及び表現力に応じて、文構造・語法の定着を図るとともに、文脈に応じた英文を書く力を高めること。

- ・書く意欲や表現力が比較的高い生徒に対しては、さまざまなトピックを設定して書かせるとともに、時には同じトピックで複数回書かせることで文章の完成度を高める指導も必要である。また、生徒同士で評価し合うpeer assessmentを取り入れることで、身近な相手とのやり取りを通して英文の正確さや適切さをより高める指導も効果的である。
- ・書く意欲や表現力が比較的低い生徒に対しては、英文を書く基本的な知識が十分身に付いていないことが、その要因の一つと考えられることから、単一の文を書くことから、まとまった内容の文章を書くことまで継続的な指導を行うこと。

実践的コミュニケーション能力の育成を図る実践例として、「話すこと」、「書くこと」を充実させることで、表現の意欲を高める指導の実践例を紹介する。

実践的コミュニケーション能力の育成を図る実践例（A 高等学校）

(1) 実践のねらい

書く意欲や表現力を高めるために、情報や考えなどを場面や目的に応じて適切に伝えることができるよう、「話すこと」「書くこと」を中心とした実践的コミュニケーション能力の育成に係る指導を工夫し、その実現状況を把握する評価方法等の研究を進める。

(2) 具体的な取組内容

話すこと

- ・英語によるコミュニケーションを図りやすい雰囲気をつくるため、生徒への指示を英語で行うなど、教師自らが積極的に英語を使用する。
- ・生徒の「話すこと」に対する動機付けを高め、英語への学習意欲を向上させるため、ペア・ワークやグループ・ワーク、発表を目的とした活動などを積極的に取り入れる。

書くこと

- ・生徒の「書くこと」への動機付けを向上させるため、教科書の題材をテーマに、「賛成」「反対」の立場から自分の意見を40語程度でまとめさせたり、日本の年中行事についての説明と自分の経験や意見などを100語程度でまとめるなどの活動を行う。
- ・英語の流ちょうさ (fluency) の向上を図るため、コミュニケーションを目的とした作文の活動を行う中で、段階的に、正確さ (accuracy) を高める指導を行う。

資料「賛成」「反対」の立場から自分の意見を40語程度でまとめさせた例

英語による指示文

Q. Suppose you find the article below in a newspaper. Write your own opinion about this project in English in 30 to 40 words. Punctuation marks such as periods( . ), commas( , ), colons( : ), and so on, are not counted in the number of the words.

新聞記事の例

JAPAN — The Japanese Government says that modern Japanese language spoken by young people is no good, and that they must learn how to speak good Japanese. The government has begun The Speak Good Japanese Movement.

出題の意図

1. 教科書の題材に関連付けて、modern Japanese languageに対する意見を簡単に述べさせる。
2. Opinion Essayの題材にもできるトピックであるが、ここでは、この運動に対して賛成か反対かの意見表明とその簡単な理由付けができることを目標とし、論理の構成や展開などは求めないため、1文10～20語で2～3文程度の英文を想定し、全体で30～40語の語数指定とした。

採点基準表

ここではCoherency (論理の構成や展開) は求めていないため、採点 (評価) の観点は、Volume (語数) とAccuracy (正確さ)、Volume (語数) とInterest & willingness (関心・意欲) に絞り、それぞれ4点満点とした。

Volume (語数) とAccuracy (正確さ)

(単位は「点」)

The Number of Words (語数)	0-5語	5-9語	10-19語	20-29語	30-40語
No mistakes / Perfect	0	1	2	3	4
Less than a few minor mistakes	0	0	1	2	3
some minor mistakes / one major mistake	0	0	0	1	2
many minor mistakes / two major mistakes	0	0	0	0	1
Not understandable at all	0	0	0	0	0

Volume (語数) と Interest&willingness (関心・意欲) (単位は「点」)

The Number of Words (語数)	0-5語	5-9語	10-19語	20-29語	30-40語
Interest&willingness (関心・意欲)	0	1	2	3	4

(3) 成果

「話すこと」については、英語を使用する場面を多く設定したことにより、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が身に付き、結果として、英語への学習意欲が向上した。

「書くこと」については、語数を増やしながらか繰り返すことにより、英文を書くことに対する抵抗感をもちない生徒が増加した。

2 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

～平成17年度高等学校教育課程実施状況調査の分析結果を踏まえた指導の改善～

前項で示した指導上の工夫・改善のポイントのうち、ここでは概要・要点を正確に理解し、表現する意欲を高めるための具体的な言語活動を紹介します。また、それぞれの言語活動は、一つの単元において、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」を中心としたものであり、それぞれが関連をもった構成となっている。

(1) 科目名 英語 単元名 Lesson 5 The Underground Railroad

(2) 本文の一部

When slavery was legal in the southern states of America (1619-1865), there were many people who helped slaves escape to Canada. They did this in secret. These people hid slaves in their homes, gave them food and clothing, and helped them travel north. This network of people around the US was called "the Underground Railroad." It was not a real train. It was a way for thousands of slaves to get freedom. The underground railroad was made up of white people and free black people. They had to be very careful. Even though slavery was illegal in most northern states, policemen from southern states were allowed to go north to chase down runaway slaves. People who were caught helping slaves were arrested and put in jail.

If slavery was legal now, would you help with the Underground Railroad?

聞くこと

英語を聞いて、メモを基に文章を再現する活動の展開例

この活動は、ディクテーション(Dictation)の一種で、ディクトグロス(Dictogloss)と呼ばれる文章復元法である。本手引では、オーラルイントロダクションとして聞き取り重視型の例を紹介するが、単元が終わったあとの活動として行うことも可能である。

〔対応する学習指導要領の項目〕

英語 2 内容 (1)言語活動 ア 3 内容の取り扱い (1)(2)

学習活動

評価の実際

[1] 本文中のまとまりのあるパラグラフを、易しい英語に書き換えた 【関心・意欲・態度】

英文を、教師が普通の速度で数回読む。

教師が読む英文の例

Slavery was legal in some parts of America. In those days many people helped slaves escape America to Canada. This group of people was called "the Underground Railroad." Both black and white people helped the slaves. It was dangerous to help them.

- [2] 生徒は聞きながら語句を書き留める。
- [3] 生徒は書き留めた語句の断片と記憶を基に英文を復元する（鉛筆使用）。
- 段階によってはカタカナで書き留めることも可能である。
- [4] 個人作業後にペアまたはグループで欠落部分を補い合い、誤りを訂正してより正確に復元する（青ペン使用）。
- 話し合いは英語で行う。
- [5] 使用した英文をパワーポイント等で提示し、生徒は自分の誤りを訂正する（赤ペン使用）。
- [6] 誤りの原因から、正確な構文や文法について意識化させるために、共通の誤りを取り上げて解説する。
- [7] 生徒はワークシートを提出する。

回収したワークシートをチェックし、教師が読んだ英語を書き留めようとする意欲が見られたものは と評価する。

この活動を継続していく上では、正確性について評価することも考えられる。また、活動中、英語を使用しているかどうか評価することもできる。

生徒がこの活動で使う英語例	教師がこの活動で使う英語例
<p>( to partner )</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• What did you write?</li> <li>• This is what I wrote...</li> <li>• We wrote the same.</li> <li>• Which word do you think is correct?</li> <li>• I think this one is correct because you should put an "s" at the end of this word.</li> </ul> <p>(to teacher)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Could you read it again, please?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Please listen to the following summary and take notes.</li> <li>• I will read it three times.</li> <li>• Would you like to listen again?</li> <li>• Now, make groups of 4 and check your answers with your friends.</li> <li>• Check your answers using the power point presentation.</li> <li>• Please pass your sheets to the front.</li> </ul>

読むこと

英文を読んで、キーワードをもとに内容を要約する活動の展開例

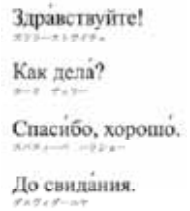
パラグラフの中で重要な語句をフローチャートのような形式で並べて生徒へ提示することにより、要約を誘導する活動である。

パラグラフを要約させる前に、T/FやQ&Aなどの活動によりパラグラフの内容の理解を促す活動と、文型練習、単語発音練習、音読練習など理解したことを表現するための橋渡しの練習を行っておく必要がある。

〔対応する学習指導要領の項目〕	
英語 2 内容 (1) 言語活動 イ エ	
学習活動	評価の実際
<p>[1] 教師が本文を読みながら、下記のような語句を板書する。生徒は教科書を閉じて教師の英語を聞く。</p> <p>板書の分量については、生徒の実態に合わせて調節する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>板書例</p> <p style="text-align: center;">legal</p> <p>slavery      helped - slaves - escape</p> <p style="padding-left: 100px;">hid - homes - food - clothing</p> <p style="text-align: center;">Underground Railroad</p> <p>network      real train</p> <p style="padding-left: 100px;">policemen - runaway slaves</p> <p style="padding-left: 100px;">helping - arrested</p> </div> <p>[2] 生徒は教師が板書したキーワードを基に口頭で要約ができるよう各自5分程度準備をする。</p> <p>あらかじめ、本文と違う表現で同じ意味内容を伝えることができるのは良いことであると奨励しておく</p> <p>[3] 4人程度の小グループにし、各グループ内で順番に自分の要約を発表する。</p> <p>[4] 各グループの代表が、全体の前で要約を発表する。</p> <p>[5] 発表された他生徒の要約を参考にしながら、各自が自分の要約を修正して、ワークシートに書いて提出する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>生徒による英文の作成例</p> <p><i>From the periods of 1619-1865, having a slave was considered legal in the United States. The Underground Railroad was not a real train but an informal network for both volunteers and slaves. Traveling was done in the middle of the night to avoid being arrested by the policemen. Volunteers were extremely brave people as they put their own lives at risk by helping runaway slaves escape.</i></p> </div>	<p>【理解の能力】</p> <p>キーワードが適切に活用され、本文の内容について「おおむね理解している」と判断できる要約ができた場合はと評価する。文法的な正確さは問わない。</p> <p>【表現の能力】を見る場合には、伝えたい情報を正確に書くことができるかなどに焦点をあてる。</p> <p>【知識・理解】を見る場合には、既習事項の確認を目的として、文法を正確に使用できるかなどに焦点をあてる。</p> <p>【関心・意欲・態度】を見る場合には、英語を使ってあきらめずに要約した内容を伝えようとしていればと評価する。</p>
生徒がこの活動で使う英語例	教師がこの活動で使う英語例
<ul style="list-style-type: none"> <li>• It's your turn.</li> <li>• OK. I'll tell you my summary. Please listen to me.</li> <li>• That's all.</li> <li>• How was my summary?</li> <li>• Your summary was excellent.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Using the key words, write a few brief sentences that explain the paragraph's contents.</li> <li>• Use the key words to write several sentences that summarize the paragraph.</li> <li>• Use the key words to write several sentences that sum-up the paragraph.</li> </ul>

意見を表現するための内容や表現方法について、ディベートの活動からヒントを得て英文を書くところがポイントである。単元終了後の表現活動である。

〔対応する学習指導要領の項目〕	
英語	2 内容 (1)言語活動 ウ エ (2)言語活動の取扱い イ
学習活動	評価の実際
<p><b>Proposition</b> "If slavery was legal now, would you help with the Underground Railroad?"</p> <p><b>An example of pro (con)</b> I would (not) help with the Underground Railroad, because <input type="text"/> and <input type="text"/>.</p> <p>[1] 上記のような論題と意見の例を板書する。 because以下の理由を明確に表現するよう指導する。</p> <p>[2] クラスを2つのチームに機械的に分けて、一方を賛成派、もう一方を反対派とする。</p> <p>[3] さらに2つのチームをそれぞれ4人程度ずつの小グループに分け、グループ毎にできるだけたくさんの論拠を考えさせる。 話し合いは英語で行う。</p> <p>[4] グループ毎に代表的な意見を3つ発表する。</p> <p>[5] 発表された意見を参考にして、生徒一人ひとりが、自分の最初の立場とは反対側の意見をワークシートに書く。 2つ以上の理由を書くこととし、書かれた理由はお互いに関連した内容とする。</p> <p>[6] 生徒はワークシートを提出する。</p>	<p>【関心・意欲・態度】 小グループで英語で話していれば と評価する。</p> <p>【表現の能力】 ワークシートをチェックし、2つ以上の理由が理解できる表現と内容であれば と評価する。 さらに、書かれた理由が、お互いに関連し説得力があれば と評価する。</p>
生徒がこの活動で使う英語例	教師がこの活動で使う英語例
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Let's make a group together.</li> <li>• Can I join your group? ... Sure.</li> <li>• Why don't you join our group?</li> <li>• Can you think of any reasons?</li> <li>• I've got one.</li> <li>• That's a great reason.</li> <li>• Let's use that in our presentation.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Let's divide the class into 2 teams.</li> <li>• You are the 'pro' team, you are the 'con' team.</li> <li>• Now in your teams, make groups of 4 people.</li> <li>• In your groups think of at least three reasons for 'pro'/'con'.</li> <li>• After that you will present your work.</li> <li>• Okay, time's up. • Please present your 3 reasons.</li> <li>• Now individually, if you were pro, you are now con. Please write 2 reasons for being con.</li> </ul>



北海道は、9校の高等学校を推進校として、ロシア語教育の推進地域に指定されています。

指定事業名：高等学校における外国語教育多様化推進地域事業

期 間：平成18・19年度の2年間

趣 旨：

国際化の進展への対応及び高等学校教育の多様化・弾力化を図るため、英語以外の外国語についても振興を図るという趣旨から、英語以外の外国語教育の教育課程上の課題や地域人材の活用方法の在り方等、外国語教育多様化の推進について実践的な調査研究を行うとともに、「高校生の交流推進事業」として、北海道と研究対象国の高校生を相互交流させ、高校生の外国語能力、異文化理解の推進及び二国間の相互理解と友好親善を図る。

特に、北海道においては、ロシアと経済交流やビザなし交流といった人的交流が活発に行われていることから、ロシア語の普及や国際理解教育の充実を図る。

推 進 校：

- ・札幌丘珠高等学校 ・札幌国際情報高等学校 ・千歳高等学校 ・石狩翔陽高等学校
- ・留萌千望高等学校 ・厚岸水産高等学校 ・根室高等学校 ・根室西高等学校
- ・有朋高等学校

具体的事業内容：

平成18年度はロシア語教材・指導書（テレモーク）初級の作成、平成19年度は中級編及び国際理解教育教材を作成する予定である。

北海道とロシアの高校生の相互交流を行う。

異文化理解、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、実践的なコミュニケーション能力の育成を目標に指導しています。

элементарный курс (テレモーク)

初 級 編

まとめ 力だめし 1

Тест № 1

最初の10課を終えて、およそ100語の新しい単語や表現、それからロシア人の名前を覚えたことになりました。今、どんなロシア語を言うことができますか。出合ったときのあいさつ、別れるときのことば「ありがとう」や「ごめんなさい」は覚えていますか。自分の名前を告げて、相手の名前を聞くことができますか。

また、会話では礼儀正しく話すことも重要です。「この方はどなたですか」「これはなんですか」「それはどこにありますか」などをていねいに言うことができますか。

話し相手の意見に相づちを打ったり、否定の表現をロシア語で言うことができますか。それでは、これまで勉強してきた範囲で力だめしをやってみることにしましょう。

問題1: Кто, что, где, можно, нельзяを使って、回答に対する質問を作ってみよう。

1. \_\_\_\_\_?

- Это карандаш.

